

# 帰国報告

音更町立鈴蘭小学校教諭  
森本 聡

## I. 派遣教育施設

北京日本人学校（平成15～17年度）

担当学年 15年度：小学部6年  
16年度：小学部3年  
17年度：小学部5年



北京日本人学校

## II. 北京日本人学校の概要

### 1. ステータス

学校名：在中華人民共和国日本国大使館附属北京日本人学校  
設立：昭和51年4月26日  
設置者：在中華人民共和国日本国大使館  
運営主体：北京日本人学校運営理事会  
現地での地位：中国政府の許可を得た学校

### 2. 児童生徒数

小学部460人 中学部117人（平成17年5月1日現在）

### 3. 平成15年4月～17年3月の主な沿革

- 15年 4月 ・森本ら8名の教諭赴任  
・第28回入学式  
・SARS（新型肺炎）のため臨時休校（4週間）  
5月 ・授業再開（児童生徒117名，日本に236名）  
・全校遠足中止  
6月 ・小2・4・6年学習発表会  
9月 ・第25回運動会  
10月 ・大連日本人学校来校  
・国際クロスカントリー大会  
・中学部修学旅行  
11月 ・小学部修学旅行  
・鑑賞教室  
・国際交流バスケットボール大会  
・日中子ども将棋大会  
12月 ・国際交流弁論大会  
・小1・3・5年学習発表会  
16年 1月 ・子ども祭り  
2月 ・国際ドッジボール大会  
3月 ・第29回卒業式



遠足（万里の長城）



鑑賞教室

————— 以下著名人来校など —————



- (6) 研修の充実
- (7) 生徒，保護者，教師の相互理解
- (8) 国際舞台で活躍できる日本人の育成
- (9) 保護者会，邦人社会，現地社会との連携・信頼協力
  - ・日本語が不十分な生徒への就学条件整備
  - ・保護者参観の機会拡大，邦人社会への情報公開
  - ・外部講師の積極的導入

### 3. 教育推進の重点

#### ●学習指導

##### (1) 特性を生かした教育課程

- ①授業時数の確保 ②必修教科，選択教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間（中国語・英語を含む），イマージョン授業 ③総合的な学習「大地の時間」
- ④道徳教育の充実 ⑤教育相談体制 ⑥交流活動，体験学習，ボランティア活動
- ⑦英語，中国語，日本語の充実
  - ・英検の奨励
  - ・TTを生かした授業形態
  - ・日本語教育講師の採用

##### (2) 意欲の高揚，生徒自ら学ぶ授業推進

- ①基本的生活習慣と一体化した学習習慣の定着 ②分かる喜びを持たせる授業
- ③授業形態の工夫（少人数指導・習熟度別指導）
  - ・算数・数学でTT，習熟度別指導
  - ・英会話・中国語で少人数，習熟度別指導
- ④生徒1人ひとりの個性伸長を図る選択授業

#### ●生徒指導

##### (1) 生徒理解を基盤とした生徒指導

- ・共感的理解，共感的指導
- ・教育相談活動
- ・礼儀指導
- ・生命の尊さ，他人への思いやり，健全な生活を送る態度

##### (2) 生徒指導における予防的教育

##### (3) 学校環境整備，施設設備の有効活用

- ・教室環境
- ・情操教育
- ・文化的活動
- ・ボランティア活動
- ・学校生活の潤い
- ・校舎内外美化

##### (4) 生きる力の育み，自己実現につながる表現活動の充実

##### (5) 強い身体と生命を尊ぶ態度を育てる健康安全指導

- ・生徒の安全確保（交通安全，学級活動・教科活動・クラブ活動など）

#### ●実践的な共同研究

##### (1) 派遣教員としての専門性，資質の向上

##### (2) 創意に満ちた教科・学級・学年経営

##### (3) 「絶対評価」についての研究

##### (4) 多様な研修と社会貢献活動への積極的参加

##### (5) 厳正な評価制度（目標設定と業績報告）

##### (6) 情報の共有化

#### ●組織的機能的協力体制

##### (1) 学校運営の効率化

###### ①学校長を中心とした学校運営体制

###### ②教頭・教務主任・学年主任・各部長の機能化と指導性

- ③報告・連絡・相談の徹底 ④柔軟な発想及び対応への意識改革
- (2) 会議の効率化
  - ・説明及び意見交流の工夫
- (3) 経費削減の徹底
  - 信頼される学校づくり
- (1) 危機管理の徹底
  - ①安全点検・避難訓練の定例化 ②警備の徹底 ③危機管理マニュアルの活用
  - ④危機管理への研修と実地訓練（シミュレーション）
- (2) 学校環境整備と施設設備の有効的活用
  - ①花や観葉植物のある学校，ごみの落ちていない学校
  - ②教室環境の工夫（学習環境に適した工夫）
  - ③教師自身の整理整頓，言語，身だしなみ
    - ・教室及び職員室の机上と周辺整理 ・子どもの人格を尊重して呼び捨ての禁止
    - ・偏見・差別・セクハラと誤解される表現 ・時と場に適した服装と身だしなみ
- (3) 学校運営理事会の役割の理解
  - ・学校運営理事会の協議決定事項の周知徹底
- (4) 多様な研修構想と教員の資質向上
  - ①理事の講話と意見交流
  - ②社会貢献活動への積極的参加
    - ・月壇中学校との授業交流 ・長期休業期間の希望小学校への訪問指導
    - ・中国における緑化事業の一環としての植樹活動
  - ③長期休業期間を利用しての現地理解事情調査

#### 4. 校内研究

- (1) 研究主題
  - 豊かな国際性を身につけた子どもの育成 ―互いを認め，高め合う授業の工夫―
- (2) 具体的な研究の目的・重点
  - ①相手や対象に進んで関わろうとする主体性を育む教材（現地素材）や学習過程の工夫
  - ②表現力・思考力を高める学習過程や形態の工夫
  - ③共存・共生への実践力を育てる現地校や国際学校との交流の工夫
- (3) 基本方針
  - ①体験や調べ学習などの課題解決や探求活動等で，自ら主体的に学習を進められる授業をつくる。
  - ②情報の集め方や調べ方，まとめ方，報告や発表・討論のしかた等を学び，表現・思考力を高める授業をつくる。
  - ③在外教育施設の特長や児童生徒の興味・関心や感性・発想を生かした学習や活動を，全教科・領域の中で展開していく。

④研究年次計画

年 度	主 な 取 り 組 み
平成15年度 (1年次)	主 題 豊かな国際性を身につけた子どもの育成 互いを認め、高めあう授業の工夫 ○ 全教科・領域における実践的取り組み
平成16年度 (2年次)	主 題 豊かな国際性を身につけた子どもの育成 互いを認め、高めあう授業の工夫 ○ テーマの継続，支援と評価方法の工夫 ○ 研究のまとめと成果，課題 ○ 次年度に向けての研究主題の検討
平成17年度 (3年次)	主 題 豊かな国際性を身につけた子どもの育成 互いを認め、高めあう授業の工夫 ○ テーマの継続 ○ 研究のまとめと成果，課題 ○ 次年度に向けての研究主題の検討

IV. 教育計画

1. 週授業時数配当

●小学部

	各 教 科									総 合			特別活動		イ ジマ ヨー ン	裁 量	計	
	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 工	家 庭	体 育	英 会 話	中 国 語	大 地	道 徳	学 活				委 ・ ク
1年	8	/	4	/	3	1	2	/	3	/	1	/	1	1	/	1	1	26
2年	8	/	5	/	2	1	2	/	3	/	1	/	1	1	/	1	1	26
3年	8	2	5	2	/	1	2	/	3	1	1	1	1	1	/	/	/	28
4年	7	3	5	3	/	1	2	/	3	1	1	1	1	1	0.75	/	0.25	30
5年	6	3	5	3	/	1	1.5	1.5	3	1	1	1	1	1	1	/	/	30
6年	6	3	5	3	/	1	1.5	1.5	3	1	1	1	1	1	1	/	/	30

●中学部

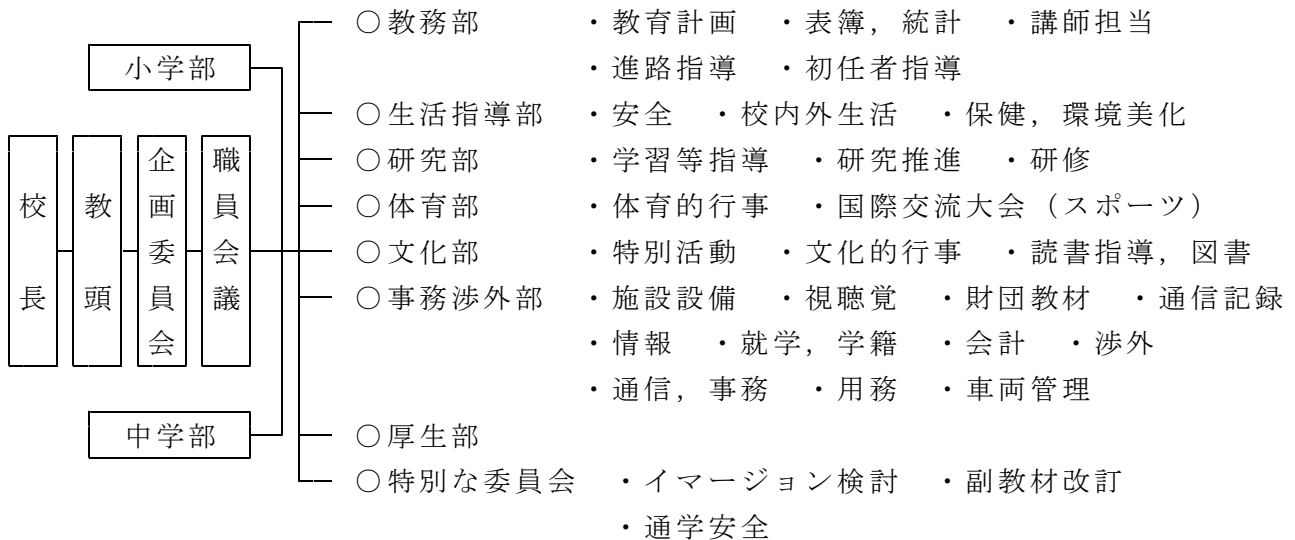
	各 教 科									総 合			特 別 活 動	選 択		計	
	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	音 楽	美 術	保 体	技 家	英 会 話	中 国 語	大 地		道 徳	I		II
1年	5	3	4	3	3	1	1	2	1	2	1	※	1	1	2	2	32
2年	4	4	4	3	3	1	1	2	1	2	1	※	1	1	2	2	32
3年	4	3	4	4	3	1	1	2	1	2	1	※	1	1	2	2	32

※選択Ⅰは（国語，社会，数学，理科，英語）から各1教科選択する。

選択Ⅱは（音楽，美術，体育，技術・家庭）から各1教科選択する。

※大地の時間については，まとめ取りをする。

## V. 校内運営組織



## VI. 3年間で振り返って感じたこと

### 1. 子ども達の実態

児童生徒の国籍は日本だが境遇は様々で、日本の企業等の駐在員の帯同家族として在籍する者、中国に土着していて片親が中国人という場合の者、他の外国に長年在住していて中国に移住してきた者などで構成される。違う環境で育ってきた者を違和感なく、自然に受け入れられる雰囲気が子ども達に根付いている。

学力は日本の平均よりはるかに高く、英語・中国語・その他の国の言語を身に付けている者も多数いる。何事にも積極的で、学校行事等にも創造的な取り組みをすることができる集団が形成されていく。

論理的に考えることができる反面、情緒面は日本の子とくらべて若干幼い面があり、いわゆる打たれ弱いという表現が当てはまる。



授業風景

### 2. 業務

業務は、まさに殺人的といって過言ではない。学校行事が過密な上に、日本では担任以外がする業務もすべて自分で処理するため、派遣教員は全員、やるべきことが山積している毎日であった。週労働70時間を超える中、誰一人不平を言わず、支え合って健康を維持し、乗り切ってきた。

標準的にインテリジェンスが高い児童生徒の集団なので、普通に教科書を扱った授業だけでは満足されない。常に発展的な課題を用意し、豊富な話題を必要とされた。また、保護者は学校での授業に対する関心が極めて強いと言える。

小学部6年を担当した派遣初年度は、地元ではほとんど皆無であった受験のための進路指導が必要となり、苦勞した。保護者との面談は学級懇談を除いては、家庭訪問ではなく保護者が来校しての個別面談となるが、担任の方針をよく理解した上で、鋭い視点からの意見が出され、感心させられることが多かった。

校務分掌は1人でいくつもかけ持ちをし、業務は複数の目を通しミスがないよう細心の注意をはらいながら進められる。当然会議も多く、何重ものフィルターにかける

といった感じであった。

### 3. 同僚

ありがたいことに同僚には大変恵まれた。全国各地から集まった仲間達は皆、実践力があり、学ばせてもらう点が多かった。同期派遣の仲間達の考え方が腹を割って話そうというスタンスのメンバーだったため、プライベートな付き合いもあったし、考えが違っていても決して空中分解することなく、お互いを尊重することができた。

皆、ガンガン働き、少しの暇を惜しんでガンガン社会勉強に出かけるといった具合だった。帰国直前は、もちろん子ども達との別れが辛かったが、一番なごり惜しく思われたのは、同僚との別れであった。

### 4. 危機！

赴任してすぐにSARS（新型コロナウイルス）が猛威を振るい、余儀なく4週間の休校となった。大都会北京も、街にはほとんど人がいないという異様な光景を目の当たりにした。児童生徒も企業の命令や保護者の判断で、半数以上が帰国して転校あるいは、日本の学校に体験入学する事態となった。その間、職員は北京に残った児童生徒に学力保障という観点から補習授業を行ったり、帰国した児童生徒にはお便りや作成した教材プリントを発送したりと、赴任してまだ慣れていない最中、本当に泣きたいくらい忙しい日々を過ごした。結局、徐々に猛威は衰退し、2学期からは本来の形態で学校生活を送ることができた。中国国内の邦人は衛生観念が定着していて、感染者がいなかったのは、不幸中の幸いである。

赴任2年目には、脱北者の学校侵入という、これまた日本ではまずあり得ない事態も経験した。侵入は計4回。1回目の時は2学期の始業式の日で、児童生徒が校内にいるときであり、安全確保のため慎重に対応した。この場面を想定して、危機管理マニュアルを作成したり、避難訓練がなされたり、職員だけのシミュレーション訓練がなされたりしていたため、慌てることなく冷静に処理できた。2～4回目は夜間の児童生徒がいない時の侵入で、早朝に連絡があり、通常授業が行えるように緊急早朝会議を経て、速やかな準備がなされた。

赴任3年目には、日本の歴史教科書問題、靖国問題に端を発した反日デモが勃発した。大使館や日本企業に投石があったり、一時日本製品の非売運動があったりした。住宅が日本大使館のすぐそばであったので、内心おびえながら大変な警戒をしたが、被害に遭わずに済んだ。児童生徒の被害もなかったとの報告を受けた。

また、鳥インフルエンザ流行の騒動もあったが、SARSの教訓から校内でも個人的にも被害はなかった。



SARS 流行時の我々

### 5. 保護者

保護者は良識的であり、高学歴者も多数である。我が子さえ良ければという考えの人はほとんどいない。どの方も学校が説明したこと、担任が話したことは非常によく覚えていて、出される意見は質が高く論理的である。働いている母親はほとんどいず、関心の大部分は学校に向けられていると言ってよい。

よく電話で情報交換をしているらしく、学校であったことは瞬時に広まる。派遣教員が一度悪いレッテルを貼られると、ずっと肩身のせまい思いをすることになるのははっきりしていた。だからこそ派遣教員は皆、背伸びしてでも多少の無理をしてでも、



がんばらなくてはならなかったのかもしれない。

## 6. 学校運営理事会

運営理事のメンバーは豪華である。名誉理事の在中国の日本大使を筆頭に、各企業中国総代表クラスがずらっと揃っている。運営理事会を傍聴しても、講演を拝聴してもただ者ではないことが分かる。そんな方々から学んだことは、厳しい民間の現状や仕組み、開かれた学校づくりのために何をすべきかということである。教員というのは、視野が狭い集団という嫌悪感に襲われもしたが、高い地位にもかかわらず低姿勢の彼らからは、ためになる話をいっぱい聞いたのは収穫だった。

## 7. お世話になった我が子

1人娘の我が子は、小学部4～6年生まで北京日本人学校に在籍し、素晴らしい先生方にお世話になったのは、大変ありがたいことであった。子どもにとっては、色々な意味で夢のような学校であつたらしく、素晴らしい3年間を過ごさせていただいた。一応帰国子女ということになるが、この貴重な経験が将来の糧になってくれることを願わずにはいられない。

## 8. 国際交流

北京日本人学校は、現地校の他に現地に設立されている国際学校との交流も盛んである。私が担任という立場で直接関わっただけでも、各種スポーツ交流、ロシア人学校、韓国国際学校、光明小学校（現地校）との交流があげられる。この場合、現地校に対しての中国語を除けば、英語を介して会話することとなる。英語力を身に付けることが重要であることは児童生徒だれしもが認識している。



韓国国際学校との交流

## 9. 社会貢献活動

日本人学校教員は現地の社会貢献活動にも力を入れている。緑化運動としての植樹、チャリティー目的の日本人会の行事への参加協力もそうであるが、格別なのは希望校での指導である。

希望校とは、日本人会や企業が現地農村地帯に設立した学校のことで、日本人学校教員は夏休みに、日本人会が設立した希望校へボランティアとして訪問し、現地の子ども達を指導する。アイデアを出し合い、日本式で退屈させない授業を創造し、実践する。現地の子ども達の視線が背中にも感じられた。すさまじい集中力、真剣な眼差しが指導者一点に注がれる。指導や様々な交流を通して、1人の教員として言いようのない浪漫を味わうと共に、現地の子ども達が自力で道を切り開いていこうとする強い意志を感じることができ、本当に貴重な経験となった。



希望校

## 10. 現地教育事情

一人っ子政策の影響もあり、特に都市部の子ども達は日本同様に保護者に大事にされている。農村部では貴重な労働力、都市部では学力重視で家庭教師をつけるのもめずらしくない。義務教育制であるが、中国全体では就学率は非常に低いそうである。

中国の小学校では反日教育とも思える内容の指導もなされている。日本が侵略したのに対し、英雄達が立ち向かい民族を守り切ったという教え方である。反日戦争記念館（盧溝橋）には数回行く機会があつたが、現地小学校の社会科学習にも使われてい



る。しかし、一般の人々が日本人に接するとき、反日感情をむき出しにして嫌悪感を表に出すような行為はまずない。

現地の社会科教科書の内容には、上記の歴史内容の記載がある。しかし、日本だけ特別なのか、単元名として日本というものが特別にあり、経済的に重要な結びつきがあることが記されている。

小学の算数・数学の教科書も研究してみた。算数（中国では小学から数学）は、四則混合計算が特に強調されている。5年生で早くも方程式や銀行利子計算が登場したり、応用問題に多くのページを使用したりするなど計算・数量領域において、日本より難しい中身となっている。反面、角度という概念や分度器の扱いが中学で初めて登場するなど、図形領域においては逆に日本の方が進んでいると言える。

## Ⅶ. 中国の概要

### 1. 政治、経済・・・

人民民主共和制。胡錦涛国家首席による政権、首相は温家宝氏が担っている。北京五輪の決定、WTO加盟ということで、北京市内はビルや環状道路、地下鉄など建設ラッシュが続いている。経済面での成長はめざましく、年約10%近くの成長が見られる。北京市内を見渡しても、外資系企業の支店、中国企業のオフィスビルが建ち並び、活況を呈している。今や中国は「世界の工場」と言われるまでになった。社会主義の国でありながら、貧富の差がますます顕著になってきている。

### 2. 面積・・・

中国の国土は、960万k㎡で、日本のおよそ26倍。

北京市の面積は16800k㎡あり、四国の面積にほぼ匹敵する。

### 3. 人口・・・

中国の総人口は、12億6583万人（2000年現在）ということは世界で5人に1人は、中国人になる計算になる。北京市の総人口は1246万人（2002年現在）。さらに流動人口は300万人～400万人と言われている。ただし、今まで都市部では1人っ子政策が徹底していたが、2002年10月から、第2子も認められるようになった。

### 4. 民族・・・

中国では漢民族が総人口の92%を占め、他に55の少数民族がいる。主なものには、チワン族、回族、ウイグル族、イ族、チベット族、ミャオ族などがある。

### 5. 言語・・・

漢民族の漢語をはじめ、少数民族のほとんどが、自分の言語を持っている。政府は、これらの少数民族の言語を尊重しつつ、普通語（共通語）の普及に努めている。大きなホテルや商店では英語が比較的良好に通用する。

### 6. 宗教・・・

仏教、道教、回教、キリスト教、ラマ教などがあり、信教の自由は認められている。

### 7. 通貨・・・元（1元は、およそ15円）1元＝10角 1角＝10分

元の切り上げが話題となっている。国民には何の情報もなく、ある日突然行われることもある。紙幣や貨幣には、100元、50元、20元、10元、5元、2元、1元、5角、2角、1角、5分、2分、1分がある。

### 8. 時差・・・日本との時差は1時間。中国全土が統一時刻になっている。

## Ⅷ. 北京市の概要

北京は、3000年にわたる歴史の重みと、中国の首都のみならず、北朝鮮を巡る6カ国協議が開催されるなど国際政治の表舞台としての活気を持っている街である。古いものと新しいもの、人工的なものと自然なものとは相反することなく調和し、独特の雰囲気を持った都市と言える。

### 1. 気候・・・

大陸性気候で、寒暖の差が大きく、夏（5月から8月）の気温は、40度近くまで上がる。また日差しも強いので、中国人の多くがサングラスを愛用している。黄砂とスモッグで、鼻と耳の穴が真っ黒になることもある。冬は日中でも、氷点下の日が多く、公園の池は凍り付き、天然のスケートリンクが至るところにできる。全般的に雨は少なく、冬季は乾燥しているためか、静電気も強く、日本の比ではない。このような気候条件なので、冬に旅行する際には厳しい寒さに備えて、股引や膝下までの暖かいコートなどを用意した方がよいかもしれない。

### 2. 国民性・・・

中国人の生活状況には厳しいものがあるようだが、一般におおらかで、大陸的でありこせこせしたところはない。また、思ったほど表面に現れる反日感情はないが、学校では日本が中国を侵略したとされる反日的とも思える教育がなされている。同じ漢字を使い、習慣もどことなしか似ているようでありながら、いざ生活を始めてみると違いがはっきりと感じられる。自己主張が強く、個人主義の考え方が徹底している。

### 3. 衛生・・・

SARS（新型肺炎）の流行で観光などが大打撃を受けたこともあり、邦人としてはとりわけ環境衛生には注意を払う必要がある。次第に街も衛生的になりつつある。

2008年の北京でのオリンピックが開催がされることで、北京は急速に変わりつつあり、街の至る所で道路工事や高層ビルの建設が行われたり、公園や噴水、歩道橋が整備されたり、自動販売機を見かけるようになった。しかし、一步裏路地に入ると、仕切のないトイレや、狭い家屋に住んでいる人々の様子も見られる。

### 4. 治安・・・

中国は他国と比べると比較的治安は良い方だが、最近では外国人相手の犯罪も増えている。近年、中国の各地方から首都北京に出稼ぎに来る人（民工）が増えてきている。しかし、現実はかなり厳しく、なかなか職を持つことができない人も少なくないようだ。そのような状況から、強盗・ひったくり・スリ・誘拐などの犯罪が徐々に増えてきている。日本人学校の近辺でも、タクシー運転手が強盗にあったとの報告が聞かれた。また、自転車を盗まれた職員もいる。天安門事件以降比較的平穏に生活しているが、やはり外国であることを認識し、微妙な日中関係の中で「いつ何が起こるかわからない」という心づもりでいる事が大切だと思う。日常生活では特別神経質になることはないが、常識ある行動が要求されることは言うまでもない。